第４回仙台城跡保存活用計画等検討委員会

Ⅰ．　開催日時　　平成 30 年 5 月 8 日（火）18 時 00 分～20 時 00 分

Ⅱ．　開催場所　　仙台市役所上杉分庁舎１２階　教育局第１会議室

Ⅲ．　出 席 者　（委　員）　北野　博司・菊池　慶子・稲葉　雅子・小齋　憲博
今野　薫・庄司　弘美・馬場　たまき・藤澤　敦・
山田　淳

（宮城県）　関口重樹（教育庁文化財課　主任主査）

（事務局）　【教育局】

教育長	佐々木　洋
生涯学習部長	佐藤　ゆうこ
文化財課長	長島　栄一
仙台城史跡調査室長	渡部　紀
主査	鈴木　隆
主事	佐藤　恵理
主事	須貝　慎吾
文化財教諭	加藤　智仁
専門員	工藤　哲司
総務企画部総務課	
企画調整係長	石川　桂吾

【建設局】

公園課長	岡田　真之
主幹	鈴木　江美子
主査	小澤　功嗣

（報道機関）　（1 社）

Ⅳ．　傍 聴 人　　0 名

※会議録の署名について委員長は庄司委員を指名

Ｖ．　概要及び議事内容等

１　教育長挨拶

２　生涯学習部長挨拶

３　開会

４　傍聴ルールの説明
傍聴の方がいなかったため、傍聴ルールの説明は省略した。

５　議事
１．前回の意見のふりかえり
資料１に基づき事務局より説明。
（質疑なし）

２．大綱・基本方針等について（続き）
資料 2～4 に基づき事務局より説明。
委 員 長：　資料３の１頁目だが、保存のオで、自然災害への対応が課題として謳われているが、災害発生時の適切な対応には、災害対応の事しか書いていない。防災という、災害の被害を防いでいくというような観点があまり謳われていない。例えばクに書いてある石垣カルテだが、石垣で言えばあらかじめ危険個所をリストアップしてそういうものへの対応策をとっていくとか、崖地、傾斜地の調査というか点検に基いた危険個所の抽出から、直接工事と言わなくとも、市民への周知を図っていくような方針だとか、そういう攻めの災害対応をやっていかなければならないと思う。活用のイで、景観とか植生は、それが大事だというご説明があったが、前回の基本計画では、植生調査や景観に関する計画もかなり踏み込んで書かれている。今回課題ということは、ここに至るまでなぜできなかったのかという反省も踏ふまえて、方向性の中で、例えば植生調査をどういう組織でいつ頃までにやるとか盛り込んではどうか。アクションが具体的に書かれていないので、計画だけ書いたけれども全然できなかったということだと思うので、同じことにならないように、その方向性を書いていただくと良い。
事 務 局：　防災については検討させていただく。植生調査は、一部ではやってたが、全体的にはできていなかったというのが実情だ。特に三の丸博物館の近く

から登城路までの樹木で、石垣に近接しているものがかなりあった。それについては調査の上、伐採したこともあったが、単発的だった。あと眺望についての検討は実はやっていない。その辺も踏まえ、今後どうしていくか、どこまで詳しく書くか検討する。

委 員 長： 二つリンクさせて進んでいけるような方向性を出していただきたいと思う。

副委員長： 1点は資料3の活用の3の史跡見学と車両通行というところだが、まとめ方の基本方針は、車両の通行と遺構の両立を図るとなっている。これは何度も説明されてそのとおりだが、史跡見学という視点に立てば、見学者の安全が大事だ。車両は通行していても、もう少し気持ちよく歩けるような歩道の整備など、活用するためには是非必要ではないか。それが大綱になるのか、基本方針に足されるのか、もう少し考えていただきたい。それから、歴史的建造物の復元については、方向性は示したということだが、方向性に、前回の計画に加え、どんな風に今回上乗せできるのか、或いは難しいのか。それから資料 4-1、ボランティアガイド等の活用で、ボランティアガイドと市民団体の活動を推進するとある。大いにやっていただきたいところだが、実際今までに本丸跡で市民によるイベントの実施というのはどれほど行われているのか、無いとすれば何が制限されているのかお聞きしたい。私はもう少しあの場が、もっと豊かに音楽会や、野外美術会などに使えるのではないかと思っている。今の段階でどう想定しているのか。

事 務 局： 歴史的建造物については資料 10 でお話しする。イベント等の実施については、副委員長のご指摘のとおり、特に市民団体が使うというのが余り無いというのが実態だ。昨年度については、政宗ワールドプロジェクトという団体が、本丸跡で鉄砲隊の演武やお茶席などを開催した。それからまた別の団体で、ある区間を区切って駆けっこをするというようなイベントがあったぐらいだった。こちらも何かに使うということをあまり考えていないし、特になぜ使われないのかということの検証をしていないので、少し考えさせていただきたい。特に事務局として、イベント実施については、特定している訳ではない。副委員長がおっしゃったように、あそこをもっと何かに使うというようなことは、将来的にはあってもいいと考えている。現在全国の色々な史跡でも意外な使い方をしている事例が色々あると聞いているので、具体的に何というのは今無いが、そういう事例なども参考にして、企画することも検討している。全国のイベント事例について、ご存知であれば教えていただきたい。

委 員 長： 最近、観光と結びついた、文化財の場所を色んな…

今野委員：　ユニークベニュー

委 員 長：　ユニークベニュー。小田原城などかなり派手にやっているが、なかなか文化財側だけの知恵では、そういう多様な活動はできないので、その分野の豊かな経験を持っている方々を巻き込んでいくと良い。

山田委員：　今、それぞれの項目ごとに整理して、課題、大綱・基本方針、方向性、方法とある。これは今後方向性が定まった時に、いつまでにというスケジュール観や、それぞれの目標は示されるのか。例えば、短期的、中・長期的とあるが、具体的にどのような目標で、いつまでにスケジュール観を出されるのか知りたい。

事 務 局：　保存活用計画では、とりあえずは20年スパンのところを見ている。その中でできるものと、それを飛び越えるものを吟味して、今後進めさせていただきたい。後で出てくる、短期的なものはどうするか、そういうものについて今後もうちょっと具体的な色分けでお話しさせていただきたいと思っている。

山田委員：　それぞれに、短期、中・長期的に分けるという作業工程といったものも出されるということでよろしいか。

委 員 長：　前回の説明では、基本整備計画の中でもう少し具体的にその辺を示していくという話だったと思う。

稲葉委員：　資料4-1の中で情報発信を進める必要があると書かれている。そもそもどういうふうに利活用するかということが決まらないと、何を発信するのかということが決まらないのではないか。仙台城址があそこにあるということは多分どなたもご存じだと思うが、そこに行ったら何があるとか、どんな楽しいことがあるとか、どんな風に使えるとか、発信する内容がこのままでは定まっていないので、具体的にどう利活用するか、どう発信するか、もうちょっと細かく示した方がいいと思う。仙台市内の方だとなかなかあそこに行き難いとか、あそこに何があるのかよく分からない等あると思うが、その辺は情報発信を上手くやればいい。市民向けの利活用にするのか、観光客向けの利活用にするのかなど、二方向から具体的に考えると良いと思う。

今野委員：　今まで、こんな使い方をしたいんだけれどもお断りをしたとか、そういう提案があったんだけど駄目だったとか、あとは、どんな使い方したいといったようなアンケートをした経緯はあるのか。

事 務 局：　情報発信については、文化財だけでの情報発信ではなく、市全体として他部局が絡むものが複数ある。例えばプロジェクションマッピングを検討しているなど。そういうものを色々より具体的に紹介や検討していきたい。今進んでいる部分もあるので、それは紹介できるような努力をしていきた

い。これは駄目だというような規制については、逆に今まで上がってきて無かったという部分もある。こちらが駄目だと止めたような例は、公には余り無かった。遺構に影響が無いようなものや、仮設のものを作っていただくのであれば基本的に構わない話しをしている。あとアンケートについては前回の計画を立てる時には色々取っていた。小さい範囲だが、遺跡の見学会をやった時に、取ったことはあった。

稲葉委員のご指摘は、もうちょっとこういうことで情報発信しますというプラスアルファーや、仙台城についてはこれを是非伝えるべきだということが、あった方が良いという風に受け止めさせていただいてよろしいか。

稲葉委員：　はい。具体的な事で言うと、最近市民の方があの辺を結構ランニングしていて、観光客も含め、朝ランニングするといいですよというような、具体的な事を発信すると良いのではないか。

事 務 局：　書き方について、具体的にどこまで書くかというところもある。例えばこれ、という例示になるかと思うが、あまり細かい事を書いてそれが 20 年間ずっと続くとなると色々支障があるかと。その辺も色々将来的なことを考えるので、一回受け止めさせていただいて。今の委員のお話しも分かりるし、実は初日の出の名所だということも聞いていた。その辺をもう少しアピールするという切り口でも良いですよね。そのようなことを内部で検討させていただく。

資料 6 に基づき事務局より説明。
（質疑なし）

資料 10、11 に基づき事務局より説明。

委 員 長：　なかなかざっくりとした計画なので、イメージの湧かないこともあるのだが。

山田委員：　委員長がおっしゃっている、漠然としている部分は、この史跡の本質的価値が何かだ。仙台城をアピールする時に、セールスポイントや或いはこれがすごいのだから、ここに仙台城を見に来てくれとか、これだけの遺跡があるから、非常に貴重なんだ、ということの理解を我々もなかなかできていない。やはりそこにはモノとしてあるのではなくて、ストーリー、歴史的バックボーン、そういったものが必ずある。史跡として、我々が共有できる財産なんだという共通の理解、というものが一番どこにあるのか。一般市民からすればなかなか分かりにくいと部分がある。史跡や調査、保存という観点からすると、多分こういう形になってくるんだと思うが、何となく我々が仙台城に行った時体感したいのは、再現性というか、昔こう

だったというところだ。そこにサブイベントがあって、ボランティアの皆さん方の活動があって、それがより高まっていく。そういった意味で、ここをどうにか世に PR していくという活動も含め、我々がこの仙台城を未来永劫語り継いでいくための、ストーリーを理解しつつ、保存活用していくんだという、何でやっているのかというところの、熱量とか、わくわくドキドキ感があまり感じられない。逆に、これはこれで全然問題ないと思うが、本質的価値が一番最初にあって、本末転倒にならないように、そこをしっかり押さえた上で議論を進めていくというのが、やはり大事だと思っている。

委 員 長： かなり本質的なご意見で、以前もあまりはっきりしない、ぼやけているとニュアンスの話が出たと思うのだが。

事 務 局： 直接的な答えにならないと思うが、史跡等を扱っている方の立場から見た時、今分かっていることと、まだ分かっていないこと、我々が新しい目線で切り開いていくことと、ステージが 3 つくらいある。それらについて、まず全体で捉え、ある意味ではどれも逃さないような言い方やまとめ方という部分も必要なのだと思う。山田委員がおっしゃったのは、確かにその通りだが、それは、今分かっているところで何を売りにするかのかというところでの明確化だと思う。調査も必要だと言っているのは、今分からないことを明らかにしていくことも必要だという視点も逃さないと。副委員長がおっしゃった、ルートの設定は、これから新しい目線でルートを作っていけば、こういうことも訴えられるのではないか、というご主張だと思う。我々はそれも見逃したくない。だから役所側から見ると総花的になるが、やはり、落してはいけない部分が多方面にあるという視点で考えているという見方もあるということを、一応、お伝えしておきたい。

山田委員： 否定しているつもりは、全くないので。そういった意味では、おっしゃる通りだと思う。

委 員 長： 今の事務局の話によると、現状の分かっている材料の中で、もう一回売りの部分はきちんと謳い直さなければならない、という指摘は必ずあるし、調査研究がないと新しい価値を掘り起こしていけないから、それも必要だと。しかし、どうしてもこういう計画だと、ただ謳ってあるだけで、調査研究はどういう組織で、どれくらいの年次計画を立てて成果を出していくのかという、次のステップを必ず具体化できるような計画にしていかなければならない。金沢城の研究所とか、熊本でもそういう研究を始めてるが、そういう組織と、具体的な先が見えるようなものが大事だと思う。

藤澤委員： 前回は保存管理の基本的な事や整備の基本的な事を定めた整備基本構想を作り、その翌年に具体的な整備基本計画というものを作った。今回保存

活用計画という、より活用も発揮させていこうということでやっている。保存活用計画を作った後に、整備基本計画を次の年、もう 1 年位かけてつくるというスケジュールであったかと思う。保存活用計画が 20 年位、整備基本計画が 10 年位で、今色々な話が出ている。20 年の計画にどこまで具体的に書くかというのは、これは非常に大枠なので、どこまで書くべきかという話も、書けるか、書くべきかという判断もあるかと思う。10 年間くらいの短期的な事を書く整備基本計画は、整備を踏まえてどう活用していくのかということを、盛り込んで議論をしていった方が良いと考える。この場である程度の意思一致ができていないと、保存活用計画でどこまで書いて、その先でどこまで具体的な事をやるのかということが、少し分かり辛い。保存活用計画の、特に短期的に実施すべき施策が、おそらく具体的に今後の 10 年間くらいのことに繋がってくる。その中で、整備基本計画の見直しを行って、計画に基づいて整備を行う。これを踏まえて、よりもうちょっと具体的な活用のあり方を、その中で色々と検討していくという方向性まで入れるべきかどうかということをご検討いただきたい。整備基本計画でも非常に具体的な話をどこまで書けるかまた議論になったら、もっと色んなことをしたいという市民の方も巻き込む形で、お互い知恵を出してやっていくような、全く別の場を考えるというのも一つの方法だ。そういうことを次の短期的なところで検討して、より良い形で盛り込んでいくというような解決策もあると思う。なお、我々が今やっていることは、20 年を見据えた非常に大きな枠組みで、そこにやるべきことが書いていないと次に進めない。総花的に書いたとしても、その先、短期的、中・長期的にせっかく整理していただいたので、特に短期的に今後どういう方向を目指していくのかということを、もう少し明確にしていく形で整理していく方向はいかがか、と思った。短期的に実施すべき施策の中に、整備基本計画の見直しを行い、計画に基づく整備を行う。その上で、それと関連付けてどういう活用ができるか、市民と共同で検討する場を設置しながら、5 年位、10 年位のスパンでの具体的な計画を共同で練り上げていく、くらいのことを今回書いておけば、次もう少し具体的な形でステップアップしていくのではないかというようなイメージだ。

事 務 局： 大変分かり易いアドバイスに感謝する。盛り込み方は検討させていただく。

馬場委員： 保存活用の委員会とお聞きしていて、どうも 7、8 割が保存に寄っていて、その保存されたものを活かして活用していこうかというような、平たく言うと、そんなイメージが今日のところまで感じている。もしかしたら、逆の発想というのもあるのかな、と思って聞いていた。このような活用をし

て、こういう人たちに来てほしい、或いは、こういう子ども達に、こういうことを伝えたい、というところがあって、そのための保存という形は、仙台らしく進めていくならどうすればよいだろうか、という方向性で考えていくというのも一つ方法としてあると思っている。数年前に白石市の方に話しを聞いたが、片倉小十郎祭がかなり人を集めているそうで、2 日間で白石市の人口を超える歴女達が集まって来るそうだ。商工会議所などからも聞くと、サブカルチャーというか、ゲームのキャラクターから人気が非常に高くなったというので、白石市的にも非常に驚いたという経緯があり、そこからあれよあれよと色々なそこを盛り上げるために進んだという話だ。白石城は復元されているので、かなり強いインパクトのあるまちづくりができるが、そういうかなり尖った部分があって、仙台市は難しいのかもしれないが、どこをこの計画で尖らせたいのか。もうちょっと活用の方に力点があるといいと感じている。

委 員 長： 出ている報告書等を見ていると、保存が前提でという発想でばかり作ってしまうと、ちょっと味気ないものになってしまう。1 回発想を変えて、今のような話を出していくといいかもしれない。

今回の資料 7 活用の方向性には今日は触れなかったが、学校教育における活用、生涯学習における活用、地域における活用、と 3 本柱が立っている。最近、観光活用ということも柱を立てて、しっかり方向付けを書いている計画書も多い。観光はそういう目で検討しないと分からないし、今話があったように地域のお祭りが地域の資源として、こういう史跡を活用していくという観点も、もう少し頭出しの仕方を変えて考えてみと良いかもしれない。

藤澤委員： 今のようなことであれば、この資料 7 をもう少し、内容を充実して整理していくというのも一つの方向性だと思う。私もまだうまく整理できていないが、仙台城に来ていただく、訪れていただくというのを考えた場合、大きく二つの側面があると思っている。まず観光客が仙台城に来たら、本丸に行く。そこで色々なことを見て感じて行いかれる。そういう方にまず知って来ていただくという、非常に広く対象を知っていただくという活用の方向性。もう一つは、仙台城は本丸だけではなく、色々な要素が積み重なっている。これはまだ分かっていないところが多いが、掘り下げていくと深い中身がある。これは特に地元の市民の方や、観光等で訪れる方の中でも、歴史に非常に興味の深い方などを主な対象にして、深く掘り下げていく活用の仕方という、大きく二つの側面があるだろうと思っている。そういうことを上手く整理し、広く知っていただくためにまずこういう方法でやっていきましょう、仙台城はそれだけでなく、もっと深い要素もある

ので、より深く知っていただくためには、こういうことでやっていきましょう、というような、もう少し活用の方向性について、どういうところを目指しているのかというところが見えやすいような形で整理していただくと、もうちょっと具体的なイメージが湧いてくるのではないか。

委 員 長： 個人的な意見としては大賛成で、仙台城は従来、観光重視、本丸中心の活用だったと思うが、市民が集える場所としての史跡公園という観点からいくと、各地の都市にあるお城は、夜でもあそこに我が心のアイデンティティのシンボルが灯っているという、見上げる存在としての史跡というのが、実は市民にとって非常に大きなものだというのが、ああいう震災なんかで改めて思い知らされた。眺望として、大橋から大手門を撮った写真がいっぱいある。ああいう風景は、すごく仙台城らしい風景だと思っていて、そこに本丸石垣が見えるのか見えないのか、という史実も含めて、そういう目で見ていくと、活用の仕方もまた、新たな見方ができるのかな、と思ったりした。そういう点もご検討いただき、市民の城になるような、活用、整備の仕方を。

公 園 課： 活用という点から言うと、やはり公園事業になっていく部分というのは多い。前回、公園センターという施設を計画中だということで報告させていただいたが、これは青葉城のエントランスとして、情報発信の機能を持っているところというのが、主なところだ。その対象として、観光客だけではなく、仙台市民を対象として、市民に改めて仙台城址の価値を分かっていただく。それから、普段の市民の生活がここにある、というような形の空間を作りたいと考えている。観光という部分では観光課、史跡がベースなので文化財課とも話をしながら、活用という部分については、我々公園課で色々考えていく。この計画の中で史跡指定はされていない周辺地区ということになるので、メインのところではないかもしれないが、活用という部分では、やはり公園事業というところもしっかりと位置付けていただくと良いと考えている。

委 員 長： 史跡の範囲外であっても、そこを含めた方向性というのは当然謳ってもいい。今公園部局で進めているガイダンス施設の有り方と連携したような保存活用計画となっていなければいけない。

小齋委員： 私はボランティアに入る前は、仙台城は 1 回見ればいい変わりばえしないと考えていたので、仙台城ボランティアを始めて、ここは結構色々なものがあると改めて認識した。観光客で、政宗像前で写真を撮って終わりというような方もかなりいるので、むしろあそこで、写真だけではなく、せめて 1 時間くらいはあそこを回ってもらいたいと思っている。そして、年 1 回とかじゃなく、もっともっと来てほしいと段々感じるようになってき

た。その間に地震があり、大広間跡地が整備され、下の三の丸周辺、それから大手門の表示がなされたりと、段々整備されていく中で、我々もこういうガイドボランティアがいるというのを PR しなくてはならない。新聞などメディアを利用して PR をした。あそこは騎馬像があって終わりだなというのを、まるっきり変えていかなくちゃならない我々ガイドはやっている。やはり、来たらせめて 1 時間以上いてもらう。それから、政宗ワールドフェスタでだいぶ人気があったということですが、子どもたちのチャンバラや、花山の鉄砲隊、お茶のお点前等々、色々なことが利用できる場所にしていきたいと思う昨今である。市民が、あそこに行けば何かあると。拠り所というか今あそこでやっているのは、すずめ踊りや、伊達武将隊の演武、それから駆けっこですか。日の出ツアーなんかも、去年あたりから出てきた。そんなことをすると、やはり一番の拠り所というか、仙台城はそういうところじゃないかな、と段々考えてきている。大学の合唱部、コーラス部もあそこに来て、何度かコーラスを聞いたことがある。更に、副委員長が言われたようなコンサートだ。できれば、城跡にはぴったりじゃないかなと感じている、海外でも、城跡でのコンサートというのは結構催している所が多いようだ。

委 員 長： 多様なことが現在も行なわれていて、トータルにマネジメントして、それを活性化させていく、或いは情報発信させていく運営体制のところになるが、ここもざっくりとした書き方しかない。そういう組織をもうちょっと検討していくというのも書いていただきたい。市役所の中では、多分部局ごとにばらばらになっていて、連携会議もあると思うが、あまりマネジメントしているようには見えてこない。ボランティアガイドの方々が、一生懸命、現場現場でやっているというイメージでまだ見えてしまうので、そうではないやりかたを目指してほしい。

庄司委員： やはりお城という場所は、また行きたくなるような場所、夢のある場所であってほしい。活用ということになると、これから色々分かってくる部分も勿論ありが、今あるところを、市民がもっと活用する場所になっていかなければいけないと思っている。ボランティアの方達は、みなさんすごく勉強されていて、色んな方から聞くと、それぞれ同じ場所でも全然説明が違っている。ボランティアさんから聞くとすごく楽しくて、やはり 1 回行ったから終わりではなく、市民にもっと愛される場所になってほしい。そういった想いも込められたような、内容が盛り込まれるといいと感じた。

事 務 局： 紹介程度だが、史跡の中の活用の一環として、陸奥国分寺では月 1 回、市民の方達が自分で参加して市をやっている。作ってきた物、例えばアクセサリーとかそういう物を販売する、ご披露している。今 150 店舗

くらい出している。休日が重なると、1 日で 8,000 人くらい市民が集まって来ている。月 1 回 8,000 人でも、年間になればかなり人数になる。市民の方が来てくれる史跡の有り方というか、使い方というのは確かにあるなと。始まった頃から見るとすごい広がったと思う。そういう携わり方、使い方というのもあるんだなと実感している。

委 員 長： 是非方向性の中に、そういうことが感じられるような文言を。最近石垣等の保存管理の部分、例えば清掃等、以前も馬場委員から紹介があったが、市民がボランティアとして主体的に関わることで、自分達のお城だという意識をだんだん醸成していくというような、市民との関わりという重要なことなので、保存の部分でも、そこがちゃんと謳われているような文章にしていただいくと良い。

（3）その他について

事 務 局： 今後のスケジュールについて説明する。全体でどういうことについて触れていくべきか、ということについては今回までで一応出揃ったという形になる。みな様には個別で話を聞いたので、結局トータルでこんな形になるという形が無いとなかなか判断いただけないかと思うので、今から事務局で、始めから終わりまで通すとこんな形になるというのを、今からやらせていただきたいと思う。そのような中身と、文化庁記念物課の意見も頂戴しながら、色々加味して、また改めてご提示したい。ただ今の活用のところは、場合によっては、そのパーツだけこんな形であるとか、更にご意見を頂戴するということになるかもしれない。全体の形でご提示するかどちらかになるかと思うが、次回までにトータルな形でまとめて、尚且つ文化庁の意見も踏まえた形で、いわゆる中間案の案という形でご提示したいと考えている。それについて、今から纏めたり、文化庁との協議もあるので、できれば 6 月の下旬位に、形をご提示できればと考えている。みな様から宿題をいただいたので、すぐにどうこうという訳ではないが、大ざっぱなスケジュールとしては、委員会のみな様にご提示した上で、概ねご了解いただければ、それをもってパブリックコメントという形で、色々な市民の方々、色々な関係する方々の意見を一定期間頂戴して、それをまた一回揉んで、最終的な案に持って行きたいと考えている。約 1 か月くらいはパブリックコメントをして、それを受けて再調整ということになるので、遅くて 1 年経ったくらいで概ねの形になるというイメージでいる。パブリックコメント後、成文化したものを委員会でみな様にお諮りするので、あと最低 2 回委員会を開催する。必要に応じてプラスアルファーで行うこともある。

それが纏まった段階で、より具体的な整備基本計画の方に移って行きたいと考えている。平成 31 年度になってから整備基本計画をやるというわけではなく引き続き行っていく。

馬場委員：　今日、本丸会館のホームページを印刷してきたが、先ほどの、駆けっこやすずめ踊りがトップページに反映されていなくて、年間イベントと書いてあった。ちょっとインパクトがやはり少なく、来年まで待たなくても、これ少し直せるのではないかと思った。こちらは行政のお仕事ではないのかもしれないが、もしそういうのが入れ込めれば、すぐにできるところはできるのではないかと思った。

事 務 局：　そちらは市のホームページではないが、そういうご紹介があるので、活かせる部分は活かした方が良い、というご提言と受けとめた。

馬場委員：　PR が少ないというのはこういうところにもあるのかなと。もっとやっているということが分かり、良かったと思ったが、反面活かされてないのかなと感じた。

（閉会）